

【取扱い厳重注意】

○吉田所長 手順書まではいっていません。基本的には操作そのものの直接的なあれは当直長の下で運転員がやるということで、支援とおっしゃっている内容も、勿論、対策本部のメインの仕事ですから、そこは例えば、保全の人間で、運転操作技術、関係するような、例えば、不具合があったら、その補修をさせるだとかいうことは当然させるわけですし、もっと言うと、安全評価みたいところで、技術班で、この炉水は下がっているけれども、どれぐらいあるんだとかの評価だとか、必要な手順で、防災に係る話は防災の人間がサポートするだとか、全体としてサポートしているわけです。だから、それを適切にサポートしろという指示をするのは私のあれですけども、手順書の個々の内容で、その手順書の是非を、ああいう最中に、手順書のここがおかしいんではないかということは基本的にできません。

○質問者 各班で必要においてやっていたかもしれないけれども、御自分としては、全部上がってきたのを最終的に検討すると、わかりました。

それから、今回、消防車の注水にも絡むんですけども、水源を更に海水に求められましたね。一般的に、原発というのは、「止める・冷やす・閉じ込める」の冷やすために水が要る。目の前に広がっている海の水を最終的には使えるんだという話は伺ったことがあるんですけども、具体的に海水を注入するに当たって、今回、海の水を取るのに結構苦労された。海水を注入することもあり得るということ为前提に、どこから海の水を取ろうかということまでは、多分、考えていらっしやらなかった。

○吉田所長 事前にはね。ここの前にはですね。

○質問者 それはなぜなのでしょう。

○吉田所長 少なくとも水源として電源さえあれば、CSTもありますし、それから、ECCS系も、RHRS系だとかが生きていれば、結局、その水源で残留熱が除去できるというのがベースにあるんですね。最後の最後、注水するというときに、海水というところまで考えていないですよ。電源がなくなったとしても、時間的に何とかなると思っているんです。さっきのDGの話もありますし、外部電源の復旧の話もありますし、電源さえ復旧できれば何とか注水できるだろうとっていて、はっきり言って、本当に腹の底から、そんな事象になると思ってつくっていたんですかということだと思います。今から思えばね。安全屋はいろんなことを言いますけれども、本当に思っていたのかと、私は逆に言いたいです。

○質問者 頭では海水を入れるという可能性も認識していることはしていたけれども、実際に、本当に海の水を最後に入れることになるというふうに考えていない。

○吉田所長 ないですよ。もしも考えていれば、それこそ海の水を吸い上げるようなラインを別に設計しておくべきです。3号機のバルブピットのところにたまった津波の海水をまず水源として使うだとか、現場の工夫だけでやってきたわけですから、事前のアクシデントマネージメントをデザインして決めた人は誰も考えていませんよ。私から言わせれば、形だけ検討しているんですよ。私だって、大元を決めていないけれども、それに従っ

【取扱い嚴重注意】

て発電所の運営して、所長もやっているわけですから、そこに思い至らなかった自分は非常に恥ずかしいと思いますけれども、最初にそれを想定しているんな仕組みを考えた連中の中に、本当にそこまで覚悟を決めて検討した人がいるかどうかというと、いないと思います。

○質問者 次に、耐震クラスの話が少し出ましたけれども、FP をするんだったらSにしておけよというお話が出たんですが、今後の未来志向の観点から、耐震クラスについて、今回の事故を踏まえて、例えば、FP を代替注水で使うんだったらSにしておかなければいけないのではないかというようなお話を伺いましたけれども、ほかに、所長が現場対処をされた際に、これは耐震クラスを上げないとまずいのではないかと思われたものは何かございますか。

○吉田所長 基本的に、私も柏崎を見て、今回、うちのプラントを見て、地震後に思うのは、一言で言うと、逆にしっかりしているということなんです。あれだけの地震が来ても、FP も壊れなかった。建屋の中はね。今回、経験的に、耐震に関して言うと結構誇れるぞと私は思っているんです。これはなかなか皆さん言わないだけけれども、建屋がしっかりしていると配管は壊れません。建屋がしっかりしていて、その建屋からサポートを取っている配管というのは、建屋が若干変異があるというか動く。当然、伸びていったり、あと、曲がったりしますけれども、溶接でちゃんとつけている限り、壊れません。切れない。切れなければ、当然、水が落ち込むものでもありますから、そういう意味で言えば、耐震的には。

○質問者 結構しっかりしていたと、今回。

○吉田所長 している。

○質問者 弱いところがあって、それを強めなければというところは特段、所長としては感じていない。

○吉田所長 FP も、全プラントとも、あんな状態でも機能を発揮してくれたわけですから、もう十分だなと、逆に思っているんです。

○質問者 わかりました。今度は、それとはまた別に、AM を実施する組織が使ういろいろな備品をきちっとやっておかないといけないですよと書いてあるんですが、そういった中で、今回、通信連絡設備がいろいろ問題があった。例えば、夏ときには、VHS 無線機のことだと思うんですが、それが電波が弱い云々という話が出ているんですけれども、まず、所長におかれて、通信連絡設備でも結構ですし、SPDS も使えなくなったり、いろいろありましたけれども、これが思いのほか使えなくて非常に難儀したというものは何かありますか。

○吉田所長 やはりそれは通信設備ですね。特に現場と中操、中操と災害対策本部の間の通信手段。まず、現場と中操の間がゼロだったわけです。

○質問者 これは PHS が使えなくなった。

○吉田所長 PHS が使えない。ページングも使えない。普通だと、ページングで、何々操